

食物アレルギー等緊急時対応手順

アレルギーを食べた、接触した、刺された(可能性含む) アレルギー症状あり

発見した保育士・教諭

- ①まず、他の職員を集める **発症している児を一人にしない**
- ②アレルギーを取り除く 食物→口から出させすすぐ、接触した皮膚や目を洗う 蜂毒→流水で洗う
大量摂取した場合、飲み込ませないように注意して吐かせる
- ③症状の確認しながら、その場で安静を保つ
意識なし→足高く寝かせる 嘔吐→顔・体横向きにし寝かせる 呼吸苦→上半身を起こし後ろへ寄りかからせる

5分以内に判断

「経過記録表」で下記の症状チェック(どれか一つでもあれば対応)
(日本小児アレルギー学会基準参考 松本市医師会と取り決め)

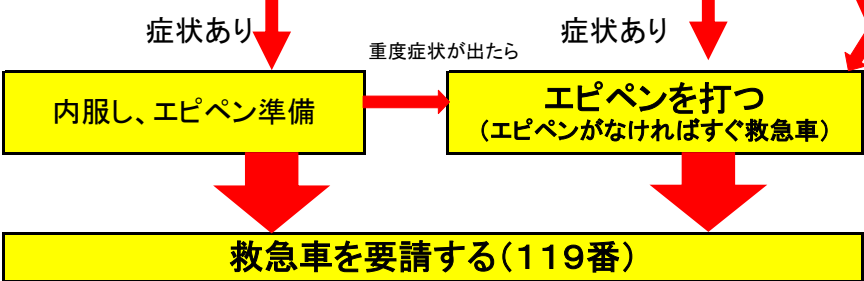
	中等度の症状	重症化懸念・重度の症状
皮膚	広範囲のじんましん 全身が真っ赤、強いかゆみ	
消化器	1~2回の下痢・嘔吐	くりかえし吐き続ける 持続する(がまんできない)お腹の痛み
呼吸器	1~2回の軽い咳	持続または3回以上繰り返す咳 のど・胸締め付けられる、声のかすれ 犬がほえる様な咳、持続する強い咳 ゼーゼーする呼吸、息がしにくい
全身		唇や爪が青白い 脈を触れにくい 不規則

内服薬
エピペン
アレルギー発生時における緊急時対応表
持ってくる

園長先生(主任)へ報告
保護者へ連絡

他児の対応別室へ移動

伝えること
①アレルギー症状が現れたこと
②症状をみて、エピペンの使用、救急車要請する
③保護者が園、搬送先へ来られるか確認



伝えること

- ① 園名、所在地、電話番号
- ② 年齢・性別
- ③ 食物・蜂アレルギーによりアナフィラキシー発症している (発症時刻)
- ④ 症状(意識・顔色・脈・呼吸・咳の有無)
- ⑤ 発症後の経過・時間(エピペン注射時刻)

その場所で安静を保つ

救急車誘導員は外で待機する

救急車到着

- ①経過記録表、食物アレルギー等緊急時対応依頼書(コピーを持参する)
- ②使用したエピペンを救急隊へ渡す。
- ③経過の分かる職員が同乗する。

症状なし ↓ 内服薬を飲ませる

安静を保つ

症状観察を続ける(2時間)

※救急車対応を速やかにしていただくために、広域消防へ必要情報(アレルギー、緊急連絡先等)を登録しています。(エピペン預かり児のみ)